

十五年九月三十日

東京府小笠原島出張所長ニ准委任御用掛ヲ置ク許ス

内務省上申

別紙東京府知事上申候處右ハ外國人關係ノ場所ニ
ミ有之諸般ノ事務經理上實際之都合無餘儀相聞候
間上申ノ通御聞届相成可然仍テ別紙相添此段上申
候也 十五年八月廿四日 内務省

上申ノ趣准奏任御用掛一名可被置ニ付其人名可申
出事 十五年九月三十日

東京府上申 内務省宛

當府管轄小笠原島之儀ハ曩日御省御所管之際費用
多額ニシテ奏仕官ヲ出張處長トセラル其後本府所
轄以來定額減省セラレ一等屬ヲ以テ出張處長トシ

東京府知事上申
別紙東京府知事上申候處右ハ外國人關係ノ場所ニ
ミ有之諸般ノ事務經理上實際之都合無餘儀相聞候
間上申ノ通御聞届相成可然仍テ別紙相添此段上申
候也 十五年八月廿四日 内務省

在勤セシメ僅々之費額ニ候得共専ラ其費達ヲ節限
シ勸業殖産ニ充テ漸々其業モ相進ミ且島民ヲシテ
教化撫育開明之域ニ至ラシメントス之ヲ外國諸属
島理治之景況ニ比スルニ絶海遠隔之島嶼ニ在勤セ
シムル官吏ハ位官極メテ重任ヲ置ケリ則外國交際
或ハ裁判出納勸業等一切ノ事務ヲ負擔スレハナリ
哉小笠原島之如キハ判仕之立場ヲ以テ出張所長ヲ
命ス所轄甚大ナラス居民僅カナリト雖モ外國人接
對裁判警察勸業等ノ事ハ勿論其他百般ノ事務ヲ料
理シ其任一ノ領事ニ異ナラス然ルニ地位卑フシテ
責任最モ重シ唯權衡ヲ得サルノミナラス實際外人
ハ接對不都合ノ場合モ有之候間該所長ハ特別ノ御
詮議ヲ以テ奏任セ等官ト被相定候様宜ク御執奏被下度

此段及上申候也

十五年八月十五日

第二局議案

別紙内務省上申小笠原島出張所長奏任官設置之義
ハ事實無餘義相聞ニ候得共現今七等官ヲ被置候義
ハ一般制度上ニモ關係致候。片特別ノ御詮議ヲ以
テ准奏任御用掛ヲ一名残置候方可然ト存候間左按
取調仰高裁候也 十五年九月廿二日